

日時 令和7年6月2日（月）14：35-16：00

場所 栃木県立馬頭高等学校会議室・各教室

1 開会【塩野教頭】

2 校長あいさつ【菊地校長】

○学校の近況について

- ・先週金曜日（5月30日）に79回目の創立記念式典を行った。
- ・現在の2年生より普通科1クラス減となり、2学級特例校となった。
- ・本年度は普通科で34名入学/40名定員、水産科で25名入学/25名定員。全体で充足率90パーセント超、水産科については2年連続で25名入学。
- ・地元の馬頭中学校と小川中学校の出身生徒が65名/165名、約40%を占める。
- ・様々な悩みを抱える生徒、特別な支援を要する生徒が在籍。令和5年度から指導協力員が配置され、特別支援教育の充実が図られている。
- ・レスリング部では3名が関東大会に出場、その他の運動部やボランティア部等も活発に活動。
- ・地域連携として、農業（普通科選択科目）の授業にて6月3日に学校給食用ロメインレタスの贈呈式を予定。幼稚園児や小学生を対象としたジャガイモ掘りも6月12日に予定されている。

3 県教育委員会あいさつ及び委員任命【教育政策課：小瀧指導主事】

- ・平成30年度に県立高校初の学校運営協議会を本校と日光明峰高校に設置し、今年で8年目となる。今年度までに設置校20校。教育委員会では馬頭高校における学校運営協議会を好事例と捉え、これからさらなる拡充を考えている。
- ・5月8日に行われた教育委員会にて学校運営協議会の新規委員として吉田豊委員、菊地隆之委員（校長）の2名を新たに任命。

4 自己紹介【委員→教育委員会→事務局】

資料1 ページ 名簿順

5 会長及び副会長選任

昨年度に引き続き、若園雄志郎会長、吉成伸也副会長

6 議事【進行：若園会長】

（1）本校の学校運営協議会について

塩野教頭：資料1「栃木県立馬頭高等学校学校運営協議会 会則」概略説明

○学校運営協議会の役割の確認

- ・校長が作成する学校運営の基本方針の承認
- ・学校運営に関する意見を教育委員会または校長に述べるができる
- ・教職員の取り組みに関して教育委員会の規則に定める事項に関して教育委員会に意見を述べるができる

○委員の任期：令和6年5月9日～令和8年5月8日

（2）令和6年度学校運営協議会活動報告

塩野教頭：資料2「学校運営協議会活動状況報告書」説明

「令和6年度地域連携活動一覧」説明

若園議長：

- ・5ページの活動欄にアウトドアライフ部が書いていないが、特に項目はなかったのか？

佐々木水産科長：

- ・4ページの水産科関連「ネイチャークラブ活動スタッフ」として参加していた。アウトドアライフ部の生徒が水産科と重複しているため、5ページに記載がない。また、5ページのボランティア部「那珂川鮎のつかみ取り」にもアウトドアライフ部から数名参加している。

(3) 令和7年度学校経営方針及び重点目標について

菊地校長：資料3「令和7年度栃木県立馬頭高等学校 学校経営方針」説明

○資料の訂正：7ページ 最後の行 「ライフワークバランス」→「ワークライフバランス」

8ページ 2 多様な生徒に応じた教育的支援の充実

(1) 生徒の特性や家庭環境に応じた支援の充実

「R7大女校」→「R7大女高」

1) 経営方針：I 学校存在意義（スクールミッション）～V 学校経営上の留意点

菊地校長：

- ・「V 学校経営上の留意点」の「7 広報活動」を今年度より新しく追加。
- ・全国校長会ではSNSを利用した情報発信をした学校も見られる。今後検討していきたい。

若園議長：

- ・学校という現場においてSNS運用はセキュリティ等の問題もあり、なかなか難しい。他県では運用している例も見られている。

菊地校長：

- ・様々な問題をはらんでおり難しい。他県では少子化により入学者が減少している中で「リスクよりもメリットの部分」と捉えてSNSを利用している学校があり、成果も出てきている。

若園議長：

- ・色々な学校でSNSを使うことが普通になってきている中でおいていかれるのではないかな。県の方へはたらきかけ、ぜひ前向きな検討をお願いしたい。

2) 重点目標：VI 令和7年度の重点目標および具体的な取組

若園議長：

- ・1(2)の「風通しの良い」職場という雰囲気は生徒に伝わる。この雰囲気が生徒にとって2(2)の「居心地のよい」学校という雰囲気へ繋がっていくのだろう。

吉成副会長：

- ・校長先生は普段生徒の前ではどのような話をされているのか。

菊地校長：

- ・生徒の普段の生活について良いところを見たことについて話を行っている。また、着任式では自身の高校時代の話（悔しい経験）をした。高校時代が一番伸びる時期なので、悔いが残らないようにチャレンジをすることが自分の成長に繋がる、頑張ってもらいたいと伝えた。

(4) 令和6年度の卒業生進路状況

藤田進路指導主事：資料4「過去2年の卒業生の進路状況（令和5・6年度まとめ）」説明

「令和7年度 第1回進路希望調査」説明

- ・昨年度の3年生が37名しかいなかったため分母が少ない。全体の傾向を示すために過去2年

間のデータ(計 101 名)を掲載した。

- ・ここ数年で進路先が就職にシフトしてきている。昨年度は地元事業所就職が 85%。
- ・今年度の 3 年生についても似たような傾向が見られる。就職希望者 55%、進学希望者 37% 未定者 8%。
- ・水産科 2 年生は 19 名中 16 名が就職希望。
- ・2 年生は大学進学希望者が 8 名と例年と比べてやや多い。

薄井委員：

- ・地元への就職 85%とは那珂川町と那須烏山市への就職のことか。

藤田進路指導主事：

- ・地元の定義は那珂川町に接している市町としている。那珂川町・那須烏山市・さくら市の 3 市町。大田原市もこの定義に入るが昨年度に大田原市で就職した卒業生はいなかった。

若園議長：

- ・2 年生の大学希望者が例年よりやや多い件について。

藤田進路指導主事：

- ・個別に見ると現在の自分の実力と希望している大学との格差があるのが現状。現時点では否定することなく応援をしている。1 年後にはやや減っているだろうと予想される。

(5) 令和 5・6・7 年度入学者選抜状況

小山教務主任：資料 5 「過去 3 年間（令和 5・6・7 年）の入学者選抜状況」説明

- ・令和 5 年度までは普通科は 2 クラス 80 名定員。令和 6・7 年度は 1 クラス 40 名定員となっている。そのため入試の倍率変遷について、志願者数に対する倍率の計算が令和 5 年と令和 6 年以降で差異がある。入学者数と充足率の計算に関しても同様。

(6) 学校の魅力化・特色化に関する意見交換

塩野教頭：「資料 6」説明

- ・12～16 ページに本年度の学校行事の写真を掲載。17 ページ以降は昨年度の写真を掲載。

矢後委員：

- ・資料 8 ページ「1 安心・安全な教育活動の推進」について。栃木県子ども会連合会において、今一番力を入れていることが自己肯定感の醸成である。体験教育・体験活動によって自己肯定感を醸成していきたいと考えている。馬頭高校の写真を見て、様々な体験活動があると思われる。ぜひともそういった活動から自己肯定感を醸成し、学校や生徒を取り巻く問題に取り組んでいただきたい。

益子委員：

- ・障害者手帳を取得できる生徒は取得する方が就職を探す際に本人にとって働きやすい環境につけるのか？手帳を取得した事例はあるのか？

藤田進路指導主事：

- ・ここ数年で複数名の生徒が障害者雇用枠で就職している。ただし労働条件において特に最低賃金の面で条件外になってしまう可能性がある。障害者雇用枠で就職しても収入面で不利益を被ることがなくはない。
- ・すべての事業所が障害者雇用枠を取っているとは限らない。そのため選択肢の幅としては一般の雇用枠の方が良い。
- ・一方で企業としては障害者雇用枠として雇用した方が企業の評価が高まるため障害者雇用枠で雇用したいという面もある。
- ・進路指導部の立場としては本人と保護者の意向を優先したい。個別にどちらが良いかの話し合いを重ねた上で決めていくことが現実的である。

吉田委員：

- ・授業の様子を見ていると先生と生徒の距離が近くて楽しそうであった。水産科の授業を見させてもらったが、好きだから来ている生徒が多いのか授業中に質問をしていた。生徒も楽しそうにしている良いと思った。
- ・地域との連携は既に多くのことを取り組んでおり大変かと思うが、漁協が行っている河川の魚を守るための様々な活動を体験する機会があると良い。漁協の担い手やボランティアに新しい人が参加するきっかけや、地元の河川を好きになってもらうことへ繋がってくれると思う。

薄井委員：

- ・資料5ページのボランティア部の活動について。3月20日に行われた「なかりんピック～ポッチャ大会～」にて運営補助という形で協力していただいた。（資料未掲載）

（7）その他

7 その他

〔事務連絡〕

第2回学校運営協議会日程について。9月下旬～10月の実施を計画している。

8 閉会【塩野教頭】